

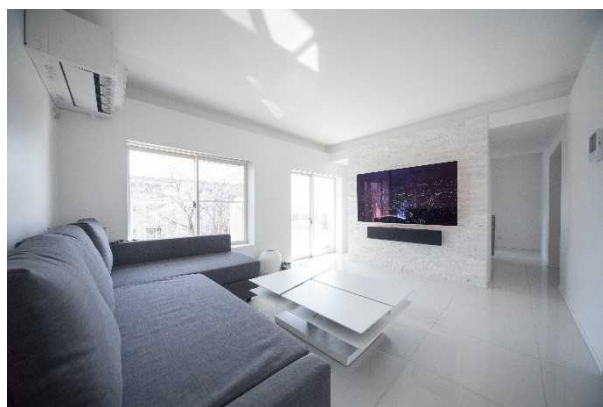
「IoT づくりの部屋」(白書第 1 部第 3 章掲載)について、ROSETTA(株)代表取締役の木村氏にお話を伺った。

まずは、IoT 機器を積極的に取り入れた部屋(以下「IoT づくりの部屋」という。)を作ろうと思ったきっかけや、お部屋のコンセプトについて教えてください。

木村氏 : 白書で取り上げられた IoT づくりの部屋は、私自身が家を購入しようと思ったときに構想し、団地の一室を実際に購入してリノベーションしたものです。我が家は共働きですので、家を買う際、日々の暮らしにおいて、家事などの負担をもっと減らしたいと考えていました。しかし、色々と物件を回ったものの、あまり希望に添うような部屋がなく、私自身が ICT や IoT に多少詳しくあったということもあり、それなら自分で作ってみようかと思ったことがきっかけです。

部屋のコンセプトとしては、「家事は家がやってくれて、家族の時間を多く作ることができる」というものです。リノベーションに当たっては、IoT 機器をただ導入するというだけではなく、その機器を使用しやすいようにいかに配置するかにこだわりました。

IoT づくりの部屋



資料) ROSETTA(株)

IoT づくりの部屋がある団地の一角



資料) ROSETTA(株)

具体的にはどういった機器が導入されていますか。

木村氏 : キッチンを例に取りますと、まず、壁沿いには専用のアンドロイドを搭載した機器を置いており、スマホのような画面を壁に映し出して、レシピを検索したり映画を観たりといったことをキッチンで行うことができるようになっています。その他には、照明やステレオ機器の操作を声によって行えるスマートスピーカーや、自動給水の流し台、自動の食器洗浄機など、試行錯誤しながら最適な機器を選び、コンセプトにあった部屋に仕上げていきました。ただ、せっかく良い機器を入れても使わなければ意味がありません。そこで、例えば先ほ

どのアンドロイドを搭載した機器については、メーカーとしてはその商品で色々なことができるという点を非常にアピールしているのですが、こうしたものは多機能であるが故、逆に面倒になって使わなくなるということが往々にしてあります。そこで、ここでは、その機器をあえて一つの機能（せいぜい二つの機能）に限定することで、使用時の煩雑さをなくし、継続的に使用できるように工夫しています。同様の考え方にに基づき、ダイニングや玄関、洗面所に至るまで、より効率的な暮らしを実現できるようになっています。

キッチンに備え付けられたアンドロイド機器を搭載した機器



その他には、どのようなお部屋のラインナップがありますか。

木村氏 : ROSETTA(株)が提供する bento ブランドにはいくつかのブランドがありまして、IoT づくしの部屋はコストパフォーマンスを重視しております。今後は、より付加価値を重視した部屋などを東京都の立川市や町田市において展開していく予定です。

白書の内容に関連してお伺いします。今回の白書では、これからの新しい時代において、日本人の感性(美意識)を踏まえた生活空間の創出が重要となることなどを取り上げています。白書の率直な感想について、お聞かせください。

木村氏 : まず、白書の全体的な構成については、分かりやすくまとめられていると思います。特に、今後の技術進歩に伴うこれからの暮らしの変化に触れているところなどは、的確な分析がなされているように思いました。

当社の事業は、一言で分かりやすく言うと“リノベーション”ということになりますが、リノベーションをすることが目的ではなく、個々人のライフステージにあった生活空間を提供していきたいと考えています。例えば、今後の事業展開の例として、キャンピングカーを作りたいなと思っています。というのも、私は、家に住む時代は終わるだろうと思っているのですが、国内を見渡してもワクワクするようなキャンピングカーがありません。海外ですと、1億円くらいの値段で、乗用車を載せられるようなキャンピングカーがあります。これから5G（第5世代移動通信システム）が浸透していくと、どこにいても高速通信が行え

るようになります。最低限、下水をつなげられるような設備さえあれば暮らしていけるかなと思っており、そのような下水設備についても研究は進められていると認識しています。

本日は、色々とお話をお聞かせいただきましてありがとうございました。最後に、今後の国土交通行政に期待することなどありましたら、お聞かせください。

木村氏 : IoTづくりの部屋は、基本的にはどなたにでもオープンにしていますので、色々な方面、例えば賃貸業者の方などからの見学依頼にも対応しております。その際、「面白そうですね、是非一緒にやりたいですね」と興味を持っていただく方は多いのですが、実際に実現までには至らないことが多いです。これまでにない部屋のつくりですので、賃貸業者としてもなかなか踏み込めない部分もあるようです。国土交通省には是非先導してもらいたいですね。例えば、どこかの団地でこうしたIoTの部屋をもっとたくさん作って、モデルケースとして運用できるような環境を整えて頂けるならば、私たちとしてもチャレンジのしがいがあるかなと思います。これから老朽化していく団地はもっと増えていくと思いますが、中には利便性がある魅力的な団地も多いと思います。そういった団地を中心に、“建て替える”ではなく、“再生する”ことにより、魅力的な空間になればいいなと思っています。

「令和元年版国土交通白書」

<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h30/index.html>

インタビューにご協力いただきまして、ありがとうございました！

ROSETTA(株)代表取締役 木村 ヒデノリ 氏

